

令和3年度留萌振興局地域農業づくり懇談会 開催内容要旨

日時: 令和3年7月5日(月)13時～

場所: 留萌合同庁舎 2F講堂

1 開 会 (高嶋農務課長)

2 挨 拶 (扇谷地域産業担当部長)

3 内 容

(1) 農業改良普及センターの活動態勢と概要・活動実績について

説明者 留萌農業改良普及センター 小澤所長

別添資料により説明

(2) 普及活動報告

ア 地域活性化のための組織育成による地域営農の確立

説明者 留萌農業改良普及センター南留萌支所 新井係長

別添資料により説明

報告に対する意見等

○ 留萌農業士・指導農業士会 林副会長

- ・ 直播には収量・労働力・コストなどの目標設定が必要
- ・ 追肥の作業は専用の機械が必要で、むしろ労働力がかかっているのではないかと。
- ・ コストや収量など、どこを重点として労力を下げるかが重要だと思ふ。

イ 広域3部門連携による遠別農高へのアプローチ

説明者 留萌農業改良普及センター 内田主査

別添資料により説明

報告に対する意見等

○ 遠別農業高等学校 織井校長

- ・ 小さな学校だが、地域として重要なポジションを担っていると認識。
- ・ 学生は農家子弟は少なく非農家出身者が多いが農業系の大学へ進学も多い。
- ・ 若い教員が多く農業への指導力は期待に沿っていないのが実情だが、普及センターから生徒や職員にも指導を得て大変刺激を受けており、今後お互いに刺激し合いながら行きたい。
- ・ 最近の農業事情の変化は短いスパンで教育現場も対応しなければならず、今後も普及センターの指導をお願いしたい。

(3) 話題提供

留萌のICTの実態について

説明者 留萌農業改良普及センター 高橋主査

別添資料により説明

報告に対する意見等

○ ホクレン留萌支所 橋本技師

- ・ リストにはないが、3月に留萌市にRTK基地局が1つできた。9月から羽幌に2つできる予定。

- ・ 農業者が導入している機械はもっと多いはず
 - ・ 留萌管内は、特に南るもい地域の山間など携帯電話の電波も届かないところが多く普及を阻害している。
- 技術普及課上川農試駐在 高田主任普及指導員
 - ・ 今年の8月には各普及センターにスマート農業の相談窓口を設置することとしているので、推進に向けて関係機関の協力をお願い。
 - 留萌農業士・指導農業士会 林副会長
 - ・ 特に携帯電話のエリア拡大などのインフラの整備を是非進めてほしい。
 - ホクレン留萌支所 鷹井米麦農産課長
 - ・ 人工衛星による小麦の生育診断については、品質向上につながり波及効果もあると思うので引き続き情報の提供をお願い。
 - ホクレン留萌支所 紺屋室長
 - ・ インターネット回線の普及不可欠。北海道全体の課題になっており系統としても国へ要請を行っているところ。

4 意見交換

- 留萌消費者協会 行天活動グループリーダー
 - ・ 食生活について、安心、安全な食生活が求められ、一般消費者が安心できることが必要。
 - ・ 本日は大変勉強となった。提供された資料を協会でも皆に見せていきたい。
- (株)中央スーパー 佐藤執行役員
 - ・ 過去にJA苫前町と連携して、中央スーパー本店で月に1回、4名の生産者が作った野菜を駐車場で即売したがお客さんが喜んでいて販売の可能性を感じている。
 - ・ 大量のとうきびもあつという間に売れるぐらい人気があった。
 - ・ 留萌管内では良いものがたくさんあるので、一般客に知らしめることが大切だと認識。
 - ・ 昨年、振興局との連携で羽幌のねばり長いものを販売した。現在は生産者が減っており、卸すだけの量がないが、昨年販売した際には午前中には完売し「懐かしい」との話を多く聞かされた。
 - ・ 地元を代表する立場としてお客さんに良いものを提供したいと思っている。
 - ・ 形は悪いが味が良い物など、地域の特産となるような作物はたくさんあるのではと感じている。
 - ・ 家庭で料理をするため、素材を求めるお客さんが増えており、留萌産のものをお客さんに理解してもらう必要があると感じている。
- ホクレン留萌支所 紺屋室長
 - ・ 管内の農産物の販売拡大やPRを行っているが地域の農産物を地域の人たちの理解を深める深めることが必要と感じており、心強い発言をいただいた。
 - ・ 留萌は農業だけでなく観光や水産物なども連携して行かなければ、留萌というものの知名度が札幌や道外等で上がっていかないと考えている。
- 留萌農業士・指導農業士会 林副会長
 - ・ 道内の農作物はいろいろな指導事項を遵守して生産されているので安全安心な物と認識してほしい。

- ・ ホクレン、普及センター、振興局が新しい情報をキャッチして農家に広げてほしい。

○ 遠別農業高等学校 織井校長

- ・ 留萌の農産物は質が高いが認知度が低いので、良いところを探して売り方を考えると良い。
- ・ 水田の水位調整システムは、データの量が多く農家が消化しきれないでいる。
- ・ 手作業からスマート化してきたが、始めからスマート農業から入ると基本的技術がかけてしまう。
- ・ 学校でもスマート農業をどのように教えていくかはっきりしたものがない状況であり、今後は貴s知識を学びつつ農業をしている者が教育カリキュラムを作ることが必要。